

National Research Council, Panel on a Research Agenda
and New Data for an Aging World, et. al.

*Preparing for an Aging World:
The Case for Cross-national Research*

Washington, D. C.: National Academy Press, 2001, xv +308pp.

人口高齢化という人口年齢構造の変化は、もはや地球的規模で生じつつある。本書は、「全世界の人口高齢化」とでも称すべきこの趨勢を念頭におきつつ行われた、高齢化に関する国際比較研究の報告書である。本書は「Panel on a Research Agenda and New Data for an Aging World」と題するプロジェクト研究（研究代表者はミシガン大学経済学部名誉教授 F. Thomas Juster 博士）をまとめたものであって、このプロジェクトは、アメリカの学術研究会議（National Research Council）の人口委員会（The Committee on Population）などの賛助によって活動が行われた。彼らは、高齢化によってもたらされる重大な5つの政策問題のグループに分かれ、研究をまとめている。すなわち、1. 労働・退職・年金、2. 私的財産と所得保障、3. (資源の) 移転システム、4. 健康と人口高齢化、5. 福祉/幸福 (Well-being) である。比較は、西欧、北欧、アメリカ、日本等の先進地域を中心に行われるが、部分的に発展途上地域も対象としている。

本書は、高齢化のトレンドは難しい問題を生じさせるが、それは重大危機 (crisis) ではないという立場にたっている。その理由として、まず、人口高齢化が徐々に進行する現象である点を指摘する。このため高齢化の結果引き起こされる、問題となるような事柄についてもまた、徐々に現れる傾向があるという。故に、政策担当者はその問題が深刻になる前に、処理する時間があると考えるのである。さらに、世界各地の人口高齢化は進んでいる段階 (stages) が異なるため他の国の経験が生かせることも指摘している。それらは主に「現在の先進諸国の経験」であるが、その経験を生かすためにはこの研究のような国際比較の視点に立った研究計画と協力そして、データベースの作成が重要であると強調する。

本の構成は次のとおりである。序章において、本書における高齢化に対する見方・問題提起および国際比較研究の意味等の提示が行われたあと、2章では世界の人口高齢化の構造的特徴と現状が紹介される。これをふまえた上で、先にあげた高齢化によってもたらされる5つの重大な政策問題を取り扱う章が続く。3章においては労働と年金の関係、つまり公的年金プランが高齢者の退職へのインセンティブとなっている点を確認した上で、財政上の危機に対する回避策を指摘する。つづいて4章では、退職後の所得保障に関する重要な政策的難問について取り扱っている。また、世代間の移転、具体的には個人の貯蓄、家族の行動、社会保障システムによる現在の労働者から退職者への所得移転などの仕組みの理解について論じているのが5章である。高齢者の健康とヘルスケアシステムに関して(6章)、また、主観的な幸福 (Well-being) について高齢者の生活の質をキーにして述べられたあと(7章)、最終章には、いくつかの提言がなされている。主なものをあげると、1. 人口高齢化に関する総合的・学際的 (multidisciplinary) 研究の推進と利用の促進、2. 労働、経済的地位、家族構造などの相互関係を解明する長期的な研究の必要性、3. 国内あるいは国際的な援助機関が異なった国々のデータの調和を促進する仕組みを確立することなどが強調されている。

国際比較研究には、社会システムや文化の違いという大きな壁が立ちただかかっており、常にデータの収集・補正等の困難を内包しているが、この点に果敢にも挑戦したことは評価できる。しかしながら、多くの問題について多くの国を取り扱ったこと、既存のデータを多く利用していることなどのためか、オリジナリティの面ではやや劣っているようである。各章の執筆者（個人名）が明らかになっていない点も影響しているのであろうか、新しい論点があまり見あたらず、やや教科書的な仕上がりとなっているところはとても残念である。とはいえ、この本は、高齢化のもたらす様々な問題を手広く取り扱っており、また政策に如何に役に立つかということが重要視されて研究が進められていることから、特に政策担当者にとっては、既存の論点あるいは各国の問題の整理・再確認をする上で非常にハンディな1冊といえる。

(辻明子/早稲田大学)